

新型インフル「5」に



電子速報版

2009年4月30日(木)発行

発行所

山形新聞社

山形市旅籠町2-5-12

電話 代表023(622)5271

Copyright (c) 2009
Yamagata Shimbun

やまがたニュースオンライン

<http://yamagata-np.jp>

モバイルやましん

<http://yamagata-np.jp/k/>



購読申し込み(9~17時)

0120-81-8040

詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

WHO 警戒水準再引き上げ 世界的大流行差し迫る

【ジュネーブ29日共同＝新井琢也】新型インフルエンザの拡大を受け、世界保健機関（WHO）は二十九日、世界的大流行（パンデミック）が「差し迫っている」と表明、警戒水準（フェーズ）を現行の「4」から初の「5」に引き上げた。「5」はパンデミックに極めて近い状況。国際的な人の移動などの制限が一層強化され、経済、社会の各分野に深刻な影響が広がるのは必至だが、WHOは国際社会に強い警告を発する必要があると判断した。

WHOは警戒水準を二十七日に「3」から「4」に引き上げたばかり。わずか二日間で再引き上げを迫られた。WHOのマーガレット・チャン事務局長が二十九日深夜（日本時間三十日早朝）緊急記者会見を開き、引き上げを発表した。

チャン事務局長はパンデミックに発展すれば「人類全体が危機にさらされる」と強調。再引き

上げは感染の中心となったメキシコに加えて米国でも「地域レベルで持続的な人から人への感染」が確認されたためだと説明した。

新型インフルエンザの感染確認は二十九日まで北米や中米、欧州、中東、オセアニアの計十カ国に拡大。ウイルスが国境を越える勢いは衰えをまったくみせていない。二十九日には米テキサス州に滞在中のメキシコ人幼児の死亡が判明、メキシコ以外で初の死者となった。

日本政府は二十八日に麻生太郎首相を本部長とする対策本部を設置し、検疫強化や国内侵入の防止に着手しているが、一層の対策強化を迫られることになった。



29日、新型インフルエンザの流行を受け、メキシコ市の地下鉄の駅近くで配られるマスクを受け取る人たち（AP＝共同）